



1・2・3_合志市南陽区の「資源物あつめ隊」は偶数月の第1日曜日の早朝から作業を行っている。ラベルの表示を見たり、磁石を使ったりして資源ごみに他の物が混ざっていないか確認。作業の合間には笑顔で話す姿も

4・5・6_菊池市福本一区のむつみ会と六十会は毎月第1火曜日の朝、公民館の前で資源ごみを回収。活動後はその場に椅子を並べてお茶会が始まる



合志市南陽区では毎回約30人の住民が集まり、会話をしながら楽しく作業を進めている

合志市南陽区では偶数月の第1日曜日、地区のボランティア団体「資源物あつめ隊」が、資源ごみの回収にいそいそといます。「この音はビンが混ざってるね」「古紙のコンテナに段ボールが入るとよ」。各家庭の前に出された資源ごみを回収し、手際よく分別していきます。「異物混入は回収業者も困るし、せっかく資源ごみを集めるなら気持ちよく分別したいですね」と話すのは代表を務める永野寛さん。「蛍光灯やガス缶などの危険物が混入していることもあるので気を付けて作業をしています。この活動が地域の分別意識の向上につながるとうれしいです」と笑顔を見せます。

資源化のために
正しい分別を

各地で進む資源ごみ回収。分別の活動は意識の向上だけでなく地域活性化にもつながっています。

進む地域交流、上がる分別意識

地域の取り組み

菊池市福本一区では毎月第1火曜日の朝、むつみ会の皆さんが資源ごみの回収に取り組んでいます。代表の水の上美代子さんは「20年以上続いていて、いつ始まったのか分からないんですよ」と話します。

数年前からは60歳以上の男性で作った六十会(瀬上光星代表)も加わっています。「活動を続けることで分別に詳しくなりました。毎月たくさん資源ごみが集まり、活動が浸透してきていると実感しています」と水の上さんは続けます。

活動の中で会話が弾み、ストレス解消にもつながっているといます。「月1回、みんなの元気な顔を見て会話を楽しんでいますよ。会員も募集中です」

続けることで意識が変わる

分別ルールを守って、ごみを削減

ごみを資源にするための第一歩



生活する上で毎日発生するごみ。分別をきちんと行うことで、ごみは資源になり、地球環境の保護につながります。各地で広がる分別の取り組みや4月から一部変更になるごみ出しの分別方法について紹介します。



資源物あつめ隊代表
永野 寛さん(合志市)

活動のきっかけは
“もったいない”

子ども会の休止で資源ごみの回収を中断していましたが、地域住民の“もったいない”という気持ちが高まり、平成28年に有志で団体を発足し活動を始めました。集まってコミュニケーションがとれる良い機会にもなっています。



六十会代表
瀬上光星さん(菊池市)

分別意識の高い
福本一区を目指して

むつみ会から「手伝ってほしい」という話があり、活動に参加しています。続けることで分別の意識も高まりました。地域の皆さんもきちんと分別してくれるので助かっています。今後もお互い協力して続けていきたいですね。



ルールを守らず、乾電池が入ったまま捨てられたおもちゃ

